

年間指導計画を立案する際の参考資料

中学校 第1学年 「美術（光村図書）」

32時間（70%）

週	領域	題材名	題材の内容	時間数	留意点
1	B鑑賞 (1)ア	感じたことを話し合おう 0.5時間	「人生」について集団で意見を交換することで、作品の世界に入り込んで想像を広げる楽しさを知るとともに、他の生徒の考えに関心をもち、互いに作品の見方を深めていくことの意義を体験する。	0.5	・関連する鑑賞題材を複合的に扱う。 ・表現活動との関連を意識する。 ・作者の心情や意図等について話し合う時間を設定する。
		美術って何だろう？ 0.5時間	小学校図画工作科の学習経験などについて話し合い、これからの美術学習とのつながりについて考える。	0.5	・小学校の図画工作との関連を意識できるようにする。
2 ～ 4	A表現 (1)ア (2)ア B鑑賞 (1)ア 【選択】	見て描く楽しみ 6時間	身近なものの中に潜む美に気づき、愛着をもって描こうとする気持ちを育成するとともに、用具の使い方の習得など、表現するために必要な基礎的な力を身につける。	6	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。
		私の安らぐ私の風景 6時間	自分にとって心引かれる風景を見つけ出す活動を通して、美に対する感受性を高める。	6	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。 ・写真を活用し、写生場所への移動時間を削減する。
		写してあらず版画の魅力 6時間	彫り方や摺り方の工夫から生まれる線や形のおもしろさ、色彩の効果などを考えながら、見直しをもって主題を版画で表現する。	6	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。 ・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
		家庭			
5 ～ 8	A表現 (1)イ (2)ア B鑑賞 (1)ア 【選択】	木のぬくもりと暮らす 7時間	木の特質だけではなく使用場面や使用者のことを考えて構想し、木に適した加工方法の基本を学びながら、身近な生活の中で使うものをつくる。	7	・題材の導入で木の加工方法を紹介する。 ・加工しやすい木材を使用する。 ・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。また、ヤスリがけは必要に応じて家庭でも行う。
		生活の中の焼き物 7時間	「板づくり」などの基本的な成形技法や土や火の性質を生かした焼き物の制作過程の基本を知り、生活に深く根ざしている焼き物について、より深く味わい理解する力を身につける。	7	・学校の施設に応じて実施する。
		家庭			
9	B鑑賞 (1)ア	特別展示室 風神雷神、自然と人と 0.5時間	日本の美術のもつ表現の豊かさを味わう。彫刻、詩、屏風絵のつながりから自由に想像したことについて意見を交換し合い、作品の見方を深める。	0.5	・関連する鑑賞題材を複合的に扱う。
		自然とともにある日本の美 0.5時間	図像の伝承や屏風絵の特性、自然や季節感の表現などを手がかりに、日本の伝統的な美術について関心をもち。	0.5	家庭
10 ～ 13	A表現 (1)ア (2)ア B鑑賞 (1)ア 【選択】	人のしぐさを捉える 5時間	クローキーやスケッチを通して人物のしぐさや表情などの特徴を捉える力を身につけるとともに、身近な人物をあらわすためのポーズや構図、色などを工夫する。	5	・制作する作品の大きさを材料の種類を制限することで、時間削減できるよう配慮する。 ・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
		見つけた、触れた、ひらめいた！ 5時間	発見した自然物や身の回りの材料から楽しみながら発想する。素材の形をいろいろな角度から観察し、何かの形に見立てたり、素材を組み合わせたりして、発想する資質を養う。	5	・制作する作品の大きさや材料の種類を制限することで、時間削減できるよう配慮する。 ・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
		形を丸ごと感じてみよう 5時間	身近な自然物や食品などの形や色を観察して、粘土などで究明に再現する。	5	家庭
		家庭			

14 ～ 17	A表現 (1)イ	絵文字がしゃべり出す 6時間	平面や立体の絵文字を、意外な発想やユーモアなどを生かしてつくる。	6	・制作する作品の大きさや材料の種類を制限することで、時間削減できるよう配慮する。
	B鑑賞			家庭	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
	【選択】 気持ちを伝えるデザイン			6	・多様な表現技法を提示することで、生徒が表現技法を選択して制作に臨めるようにする。
		6時間		家庭	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
18	B鑑賞 (1)イ	原寸大で鑑賞しよう 火燵型土器 1時間	指の痕跡まで感じられる原寸大の火燵型土器を細部まで鑑賞し、施された装飾の特徴やつくり方の工夫について話し合う。火燵型土器に込められた古代の人々の思いと造形のよさや美しさを感じ取り、美術文化への関心を高める。	1	
	【選択】	アジアをつなぐ 仮面の舞 1時間	アジアの国々のさまざまな地域の歴史と風土の中で培われてきた文化の特質について、仮面の造形をテーマとして鑑賞する。	1	
		1時間			
19 ～ 21	A表現 (1)イ	文様、飾りの小宇宙 4時間	手描きや切り紙、コンピュータなどの中から適切な方法を選び、繰り返しのパターンなどを応用した文様をつくる。	4	
	B鑑賞 (1)ア			家庭	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。

※時間数の精選方法（例）

○同じ領域の題材を選択して扱う。

・例えば、A表現（1）ア（2）アを扱う題材として、「見て描く楽しみ」「私の安らぐ風景」「写してあらかず版画の魅力」のいずれかを選択して実施する。 など

○加工に時間がかかる材料を扱うことを避けたり、作品の大きさを小さくしたりして、制作時間の短縮を図る。

○題材によって多様な表現技法を提示することで、生徒が表現技法を選択して制作に臨めるようにする。

○製作途中の相互鑑賞は、鑑賞の視点を明確にし、短時間でを行うことが考えられる。

○振り返り（制作した作品の鑑賞等）の活動は、休み時間などを利用し、展示された作品を鑑賞することが考えられる。友達の作品に対するコメントは、作品の名札に付箋紙を貼るなどの工夫をすることが考えられる。

○鑑賞の題材を表現の題材の導入等で扱うなど、表現と鑑賞の関連を意識し複合的に行う。

○資料収集やアイデアスケッチ、配色計画など、構想を練る学習の補充は、家庭での課題として扱う。（提出されたアイデアスケッチや設計図などは、「表す」時間の前にチェックし、助言をワークシート等に記入して生徒に返す。